

4月づけ事務局見解の欺瞞性を暴き出せ！

事務局多数派の右旋回の翻案を許さず！ 全学斗との大衆団交を実現せよ！

四条件にならむる

予備折衝は大衆的にならとれ！

展望なき学生議系の大衆団交要求の空語を暴露せよ！

全学の学生共同会議

学友諸君、どうわけ全學斗に結果レオナリス諸君、一方における大學當局の「日操業時間至し上命令」とした收拾策が、他方における日共＝民青系の「ひー」の決定骨抜き→全學協議会制」による「新た大學園構想」づくへの転落、「の幾周にあって、多くの「一般学生」をこの兩者に右翼的にまきこまる」として、全學斗の斗いは困難な局面に直面している。

いやまさに、この間の全學斗内部の混亂と指導部の腹の底からの指導性喪失こそが、この局面を全學斗が未だ突破しない主体的な根柢といわねばならない。28日回答を盾に身をかばいながら收拾政幹の具體化をめぐる意志一致に腐心している大學當局に対して、残念ながら未だ我々は大衆的な反撃をつくり出しえていない。さればなりな、完全にパニックに陥ちこんだ事務局が出しては引つこめるアラグマチックなりきり集まる葬りさてはいのだ。またもや事務局は、この間の右旋回を克服するのではなくして、その株肉での「焦臭移動」でしかない「事務局見解」—四条件以下の大衆団交」を昨4日うち出している。

移転撤回をめぐる全学斗
との大衆団交は自明だ——
問題はいたに外したことだ！

事務局の焦臭移動を擧げ——

だが事務局見解の欺瞞性は明らかだ、そもそも彼らは、先週彼らの全學斗内部の証言の責任ある集約を何うなししていい。今や一時のバツスもなく事務局のソファードゴロ寝している彼らは既に責任のとつようもないのかも知れない。

この間の証言において赤裸々にされたものは、事務局はじめ多くの学友が、現在いかに斗争べきかに心を拘らす、昨4日の見解は、完全に今までと軌を一にするものでしかない。一一定の前進などと評価するものではない。一一定の前進などと評価するものではない。

るのはマトヘズレモはすはだし。フロントの某君のように「自己批判する必要なんかなー」という主張がまさに遺憾だものであるからだ。)

なぜなら、我々は、論説のはじめから、なちどるべき大衆団交の内容、形式をあくまで対立をなだらづくべきだのではなく。我々にとって、「移転撤回を否めざめる評議会と全學斗との大衆団交」は自明の前提である。たゞならば、もろに論争裏は、事務局がこの大衆団交を掲げながらも、28日回答などの実現の過程であると強弁したことに対する(との結果が全學斗を交渉団体とすることへの日和見なのだと)、28日回答||收拾策そのもののへの粉碎の斗いなしにはこの大衆団交はなぞとりえないという主張を基軸とした実現過程に關する問題であつたからだ。

だから考えてみたまえ、大衆団交の4条件の具体化は結構だ。(その内容は検討することとして)しかし、それをかちどる過程、とりわけ予備折衝に關するかかわりは今までと何ら変わらないではないか、まさに無原則的な予備折衝に対する反撃の鋒先をかわすための「焦臭移動」なのだ。しかしそのような小手先粗工のシンボル操作によつては、何う我々の大衆団交に向けての前進はありえない。キヤンヤーン主義者の夢想ならしさ知らず。

では「見解」にそつて考えてやこう。

オーに、文句の名さ28日回答に答えることに反対する。あくまでも全學斗として當局に要求をつきつけていくことを一つの焦臭として全學斗の斗いをつくり出していくべきだ。それは形式の問題ではない。そのような古い抜けは自らの日和見を自己暴露するだけだ。民青系のまさかえに對してこそ、われわれは明確にすべての自治会・學友が全學斗に結集すべきことを鮮明にすべきだ。

(ウラヘ)

ヨニニ、28回答に対する「基本的に受け入れる」と
とに反対する。学友に28回答への幻想を煽ることほ
一つ許されない。へ彼等の何とか28回答から切れたく
ないという当局への弱腰の表現だ！ 4日付「フロント」
には当局の効用に関して「田牧裕第助など一括して
しまうことも当然しだなどといつてはいるが、この前の
評議会の意見調整が大衆団交のどちら方に關して全厚身
系をより圧迫する強硬意見との間の意見調整であつて
当局が厚生に対して12月授業再開をめざして收拾策を
を緻密化していくことに対して、学友の警戒を促すの

に怠ることはない。彼等ノロントがたしかに动摇して
いる当局のしかしあるを基準とした动摇のかく申らか
にしないのは一貫したことだが、今やそれはバニッケ
に附った彼等の甘い期待の表明なのだ！」
このふうな基本的なことを明らかにするより、当局
に対して我々は、全般として大衆団体を千条件を付
加して要求していくのである。

(4)は大衆団交をより全学斗の結果した力の發展を與るべである。
一一一では、条件の(3)と(4)を問題とする。
(3)は基本的立場を貫いて全学斗とのしと訂正され
べくある。

現するためには「結集した学友の発音はすべて自由であ
れ」とされるべきである。

さて、最大の問題は筆記「歴」してある。

一体、大衆団交の内閣と方法に廻る4条件に関する
当局からの「準備折衝」の提案に関して、ノコノコとボス
交に對していくところが、このおめでたご加減！「賤微
すやくし決意に燃えてボス交に応じたその場」とうする
つもりなのが教えて欲しいものだ。予想されど當局から
のしめつけを粉碎するためはどうするつもりなのかな？か
つも争を大衆化する一つの結果とちしうるものさむぢ五
ざとボス交に解消するなのだろうか教えて欲しいものだ。
今や完全に腰の抜けた事務局に代わるわれわれの提案
は以下の通りだ。

さす、われわれの新セミ大衆団を要求に廻してご予想され
れる当局の出方はフギのようなものであつた。

④4条件のもとに応ずる場所——わざわれは直ちに大舞団交をかゝる。

はよくまともな回答を難しかつた場合——われわれは
断乎として報復をもつて応えねばならない。

(4) 2回答の棒へと去り二つを差し、一つを
らかの手筋折衝を打ち出した場合。

(当局は「誰も白いムード」を前面に出す為にも口を
きかず、不動産業者へ「うるさい年次申告書」

方準備は怠るべくではなれ。」この場合に、事務局はノコノコとボス交に出かけるといふのだ。しかし考え

ても見たまえ。この場合の予備打撃は、明確にかれわれの新たな再度の要求をとりまとめるための提案策動ではないか！ では、一部諸君が主張するように、この予備打撃をも蹴るべきなのどう？ それは余り

に、丁全学斗との大衆団交しを獲得する道すじに肉し
て何も考えていないといわざるを得ない。今、われわ
れは腰の抜けた事ム局に代わって、日共リ民青に抗す
る移転阻止の斗いの隊列をつくり出したつある。しか
し、それに踏まえつつも、充分に日共リ民青系と対抗
しうる独自の運動上の焦点をつくり出すうでなければ、
太衆的な基盤を日共リ民青に抗してつくり出することは
できないし、かつ二の焦點を移転阻止の斗争が対処し
したものとしてつくり出す活動を全うする手がかり
ニど、頭の中だけの「移転阻止」を完結させる力がだ。
したがつてわれわれは、二の予備折衝を大衆的予備
折衝として実現する二とに、二の当局のしわけけを
粉砕するとともに、「全学斗との大衆団交」にむけて
の大衆的結果の突破口をつくり出さうではないか。
以上の点に立つてわれわれの付記はこうだ。

(4)四条件の下に大衆団交に応じるのであれば、日時
場所は全学斗が指定する。

④二の大衆団交要求を拒否する場合に付、小学校事
務封鎖をもつて応える。

如われわれの要求に附して向うがの予備折衝を必要
とする場合には、それは全学斗との大衆的予備折衝
でなければならない。

学友諸君! 二の大衆団交要求の指針の下に、わか
う隊列を打ち固め、当局につきつけっこいくと同時に、
日共リ民青系の指揮の下につなぎとめられて二の當友
に対しても、二の幻想をうち碎き、すべきの自己会、
学友が全学斗に結集する二と二と勝利への道である一
とを明らかにして二こう。へ嗣に事ム局内各教派系の
日和見主義者に、やりつて教育者には全学共に積算す
る学友を中心として、全学斗への結集にむけて斗いが
おしすすめられてい。え以外にむける運動の反教
信部派の活動もまた原則的に実現されよべきだ。

われわれは、今、実現されるかも知れぬ二大衆団交
への一切の幻想を破つて長期ストの内実を固めるに同
時に、当局にわれわれの要求を即ちつけていく場とし
ての大衆団交をわれわれのベタモニーの下に実現する
ためのギーを多くの学友とともにかかるところがなけれ
ばならぬ。

さて、学友諸君! われわれが事ム局に対する「消亡